

# 研究評価委員会

## 第19回「追跡調査・評価」分科会議事要旨

日時：平成22年10月15日（金）14:00～17:00

場所：NEDO 日比谷オフィス

### 分科会出席者（敬称略、順不同）

#### 追跡調査・評価分科会委員

分科会長	菊池 純一	青山学院大学 法学部長・大学院法学研究科長	教授
委員	小川 紘一	東京大学 知的資産経営総括寄付講座	特任教授
委員	永田 晃也	九州大学 大学院経済学研究院	准教授
委員	林 隆之	大学評価・学位授与機構 評価研究部	准教授
委員	藤野 仁三	東京理科大学 専門職大学院 知的財産戦略専攻	教授
委員	渡邊 裕	岡山大学 研究推進産学官連携機構	教授（副機構長）

#### 【ご欠席】

委員	大津山 秀樹	インテクストラ株式会社	代表取締役社長
----	--------	-------------	---------

事務局	竹下 満	NEDO 評価部	部長
	吉村 大輔	NEDO 評価部	主幹
	山下 勝	NEDO 評価部	主任研究員
	福井 和生	NEDO 評価部	主任
	穴戸 沙夜香	NEDO 評価部	職員

#### 事務局支援（シンクタンク）

岡田 光浩	（株）三菱総合研究所	金融コンサルティング本部	主任研究員
杉江 周平	（株）三菱総合研究所	金融コンサルティング本部	研究員
猪瀬 淳也	（株）三菱総合研究所	金融コンサルティング本部	研究員
日野 俊喜	（株）日鉄技術情報センター		部長
田村 信一	（株）日鉄技術情報センター		主席研究員
坂下 雅雄	（株）日鉄技術情報センター		特別研究員
中村 正和	（株）日鉄技術情報センター		客員研究員

他 事務局5名、同支援1名、速記者1名

傍聴者 一般傍聴3名

## 議事要旨

### 1. 開会、配布資料の確認（議事次第、資料1）

事務局から、委員の出欠数と委員会の成立、配布資料の確認を行った。

### 2. 分科会の公開について＜審議＞（資料2）

事務局から、研究評価委員会の扱いに準じた分科会の公開・非公開に係る説明があり、分科会長より、本日の分科会は、公開としたい旨説明が行われ、出席者の了承が得られた。

### 3. 平成21年度追跡調査・評価報告書について＜報告＞

事務局から、平成21年度追跡調査・評価報告書（資料3）について、説明がなされ、委員からご意見有る場合は10月29日までにいただく事とした。

### 4. 平成22年度追跡調査の実施状況について＜報告＞

#### (1) 追跡調査・評価分科会における報告・審議内容

事務局から、追跡調査・評価の目的・対象・流れ・用語等と平成22年度分科会の開催予定（資料4）について説明がなされた。特段の質問は無かった。

#### (2) 事前準備調査

事務局から、平成22年度における事前準備調査の状況（資料5）について説明がなされた。次いで、質疑応答がなされた。主な質疑内容は、回収率が100%である理由、実施者単位だけでなくプロジェクト単位でのマネジメント評価が可能な仕組み作りの重要性、NEDOの積極的な戦略を支援する材料となる期待、追跡調査結果のフィードバック過程の開示の必要性、世界レベルでの日本の状況とそれに対するNEDOサポートの的確さを評価する指標の必要性、中小企業の参画の重要性、指標として海外出願件数の必要性、等についてであった。

#### (3) 簡易追跡調査

事務局から、平成22年度における簡易追跡調査の状況（資料6、6-1、2）について説明がなされた。次いで、質疑応答がなされた。主な質疑内容は、二時点を跨る推移のフォローアップの必要性、人材の転出状況データの意味合い、事前準備調査設問の競合企業数と想定外の事態発生の際の設問は簡易調査でも取るべき重要な指標、上市に向けてとそれ以外と二分した意識の混在の可能性、スピルオーバーの観点からの人材流動データの読み直しの可能性、技術転用への発展型質問の重要性、目的を明確化した設問の重要性、雇用に関する設問の重要性、等についてであった。

#### (4) 詳細追跡調査

事務局から、平成 22 年度における詳細追跡調査の状況（資料 7）について説明がなされた。分科会長から、本委員会での分析の示唆、戦略的示唆を追加的に聞いていただくと期待するとのコメントあった。

#### 5. その他〈報告〉

事務局から、NEDO プロジェクトにおける費用対効果に関する一考察-「NEDO インサイド製品」に関する調査結果の概要-（資料 8）について説明がなされた。次いで、質疑応答がなされた。主な質疑内容は、初期のコア技術・寄与率 100%の前提なら概ね妥当、製品によってはバックデータを整備しておく必要性、金額だけでなく CO<sub>2</sub>削減効果の積算の有効性、評価したい時点はプロジェクト終了時点か／開始時点か、事業化と特許数の関係の有無、等についてであった。

#### 6. 今後の予定

事務局から、平成 22 年度追跡調査・評価スケジュール（資料 9）について、説明がなされると共に、本分科会結果は研究評価委員会にも報告される、次回分科会は 12 月の予定との説明がなされた。

#### 7. 閉会

分科会長より、閉会とすることが示された。

## 配布資料

資料番号	資料名
資料 1	研究評価委員会「追跡調査・評価」分科会 委員名簿
資料 2	研究評価委員会分科会の公開について（案）
資料 3	平成 21 年度追跡調査・評価報告書（平成 15、17、19、20 年度終了プロジェクト）
資料 4	追跡調査・評価分科会における報告・審議内容
資料 5	平成 22 年度事前準備調査の状況
資料 6	平成 22 年度簡易追跡調査の状況
資料 6-1	プロジェクト成果の当該テーマ以外での活用事例（非公開資料）
資料 6-2	プロジェクト期間中・終了後の研究員他機関への転出状況（非公開資料）
資料 7	平成 22 年度詳細追跡調査の状況
資料 8	NEDO プロジェクトにおける費用対効果に関する一考察
資料 9	平成 22 年度追跡調査・評価スケジュール
参考資料 1	研究評価委員会関係の公開について
参考資料 2	平成 22 年度追跡調査票